

2023 年度 札幌大谷大学
卒業生の就職先アンケート（芸術学部・社会学部）
結果報告

調査対象 ① 2016(平成 28)年度～2020(令和 2)年度卒業生の就職先
② 2021(令和 3)年度～2022(令和 4)年度卒業生の就職先

実施目的 卒業後の進路・就職状況から、教育の成果や効果が上がっているかについて
検証し、今後の教育活動の改善に反映させることを目的とする。

調査時期 ① 2022 年 3 月 1 日(火)～3 月 25 日(金)
② 2023 年 9 月 1 日(金)～9 月 29 日(金)

調査方法 WEB アンケート（郵送による告知）

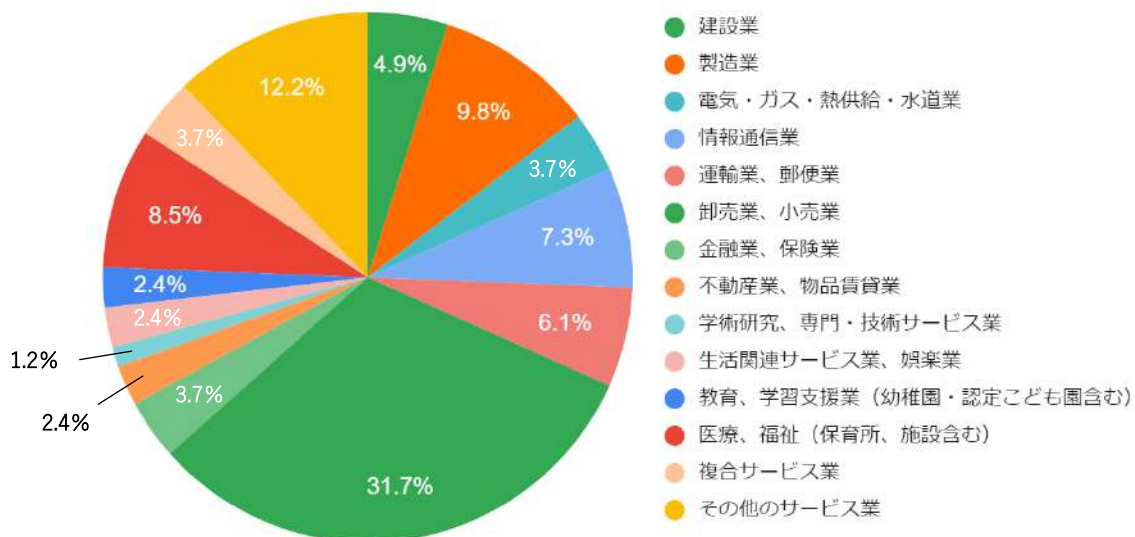
回答数・回答率 82 件／235 件＝34.9%

【回答者の属性】

○ 企業名
(省略)

○ 部署名・役職名
(省略)

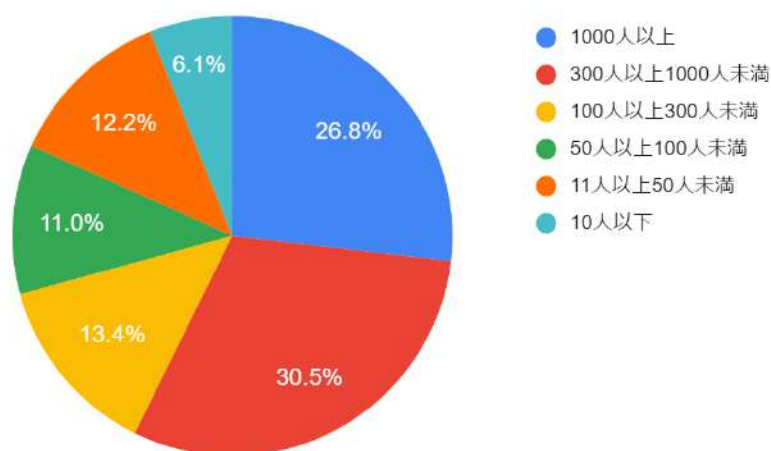
○ 業種
82 件の回答



業 種	回答数
建設業	4
製造業	8
電気・ガス・熱供給・水道業	3
情報通信業	6
運輸業、郵便業	5
卸売業、小売業	26
金融業、保険業	3
不動産業、物品賃貸業	2
学術研究、専門・技術サービス業	1
生活関連サービス業、娯楽業	2
教育、学習支援業（幼稚園・認定こども園含む）	2
医療、福祉（保育所、施設含む）	7
複合サービス業	3
その他のサービス業	10

○ 事業所規模（従業員数）

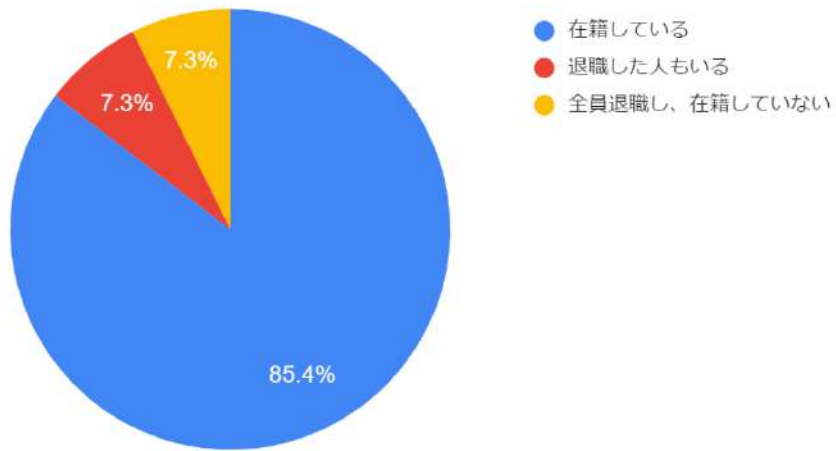
82 件の回答



業 種	回答数
1000 人以上	22
300 人以上 1000 人未満	25
100 人以上 300 人未満	11
50 人以上 100 人未満	9
11 人以上 50 人未満	10
10 人以下	5

【問 1】札幌大谷大学出身者の在籍状況

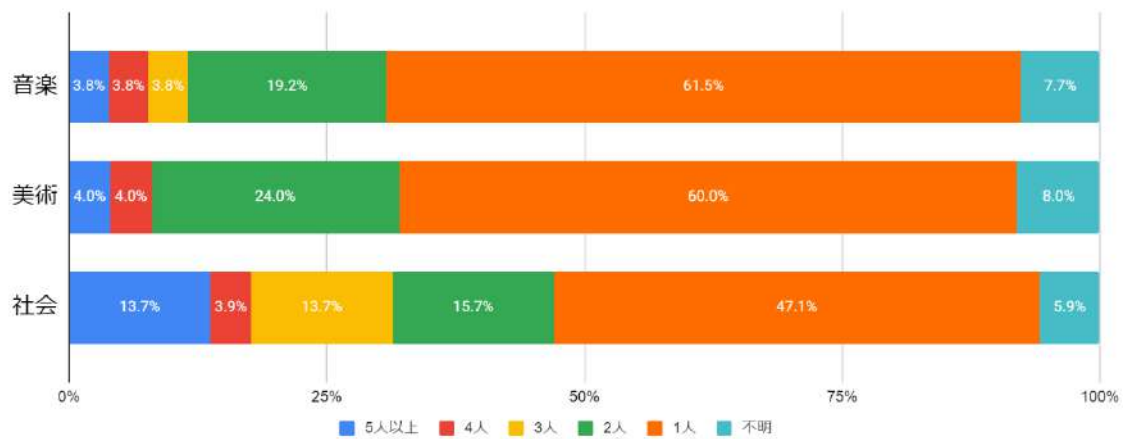
82 件の回答



業 種	回答数
在籍している	70
退職した人もいる	6
全員退職し、在籍していない	6

【問 2】在籍している（在籍していた）人の専攻学科と人数

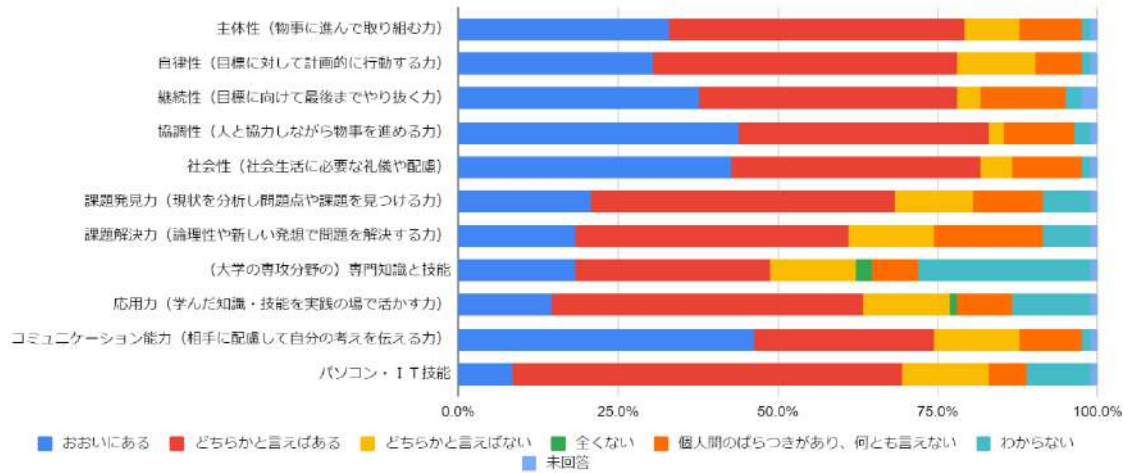
82 件の回答



専攻学科	5人以上	4人	3人	2人	1人	不明
芸術学部音楽学科	1	1	1	5	16	2
芸術学部美術学科	1	1	0	6	15	2
社会学部地域社会学科	7	2	7	8	24	3

【問3】能力や資質についての評価

82 件の回答



現在の仕事において必要とされる能力・資質	おおいいある	どちらかと言えばある	どちらかと言えばない	全くない	個人間のばらつきがあり、何とも言えない	わからない	未回答
主体性（物事に進んで取り組む力）	27	38	7	0	8	1	1
自律性（目標に対して計画的に行動する力）	25	39	10	0	6	1	1
継続性（目標に向けて最後までやり抜く力）	31	33	3	0	11	2	2
協調性（人と協力しながら物事を進める力）	36	32	2	0	9	2	1
社会性（社会生活に必要な礼儀や配慮）	35	32	4	0	9	1	1
課題発見力（現状を分析し問題点や課題を見つける力）	17	39	10	0	9	6	1
課題解決力（論理性や新しい発想で問題を解決する力）	15	35	11	0	14	6	1
（専攻分野の）専門知識と技能	15	25	11	2	6	22	1
応用力（学んだ知識・技能を実践の場で活かす力）	12	40	11	1	7	10	1
コミュニケーション能力（相手に配慮して自分の考えを伝える力）	38	23	11	0	8	1	1
パソコン・IT技能	7	50	11	0	5	8	1

【問4】採用選考で特に重視する点（複数回答可）

82件の回答

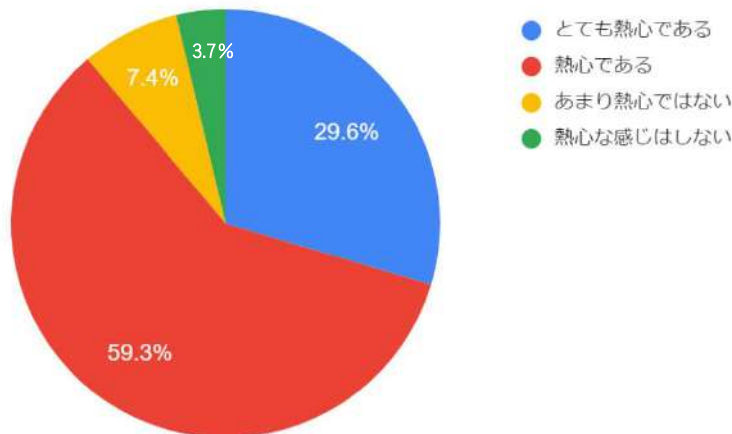
業 種		回答数
コミュニケーション能力		72
論理的思考力		18
学業成績		1
協調性		65
積極性		60
発信力		3
専門の知識や技能		6
リーダーシップ力		10
創造性		9
柔軟性		37
語学力		1
留学経験		0
部活経験		2
一般常識・マナー		39
ストレス耐性		34
課題解決力		18
潜在能力（ポテンシャル）		13
その他 （自由記述）	好奇心	1
	コンピテンシー能力	1

【問5】札幌大谷大学に抱く印象や特徴

（省略）

【問6】大学の就職支援活動

81件の回答



大学の就職支援活動	回答数
とても熱心である	24
熱心である	48
あまり熱心ではない	6
熱心な感じはしない	3

【問7】本学の教育あるいは採用にあたっての感想・要望

(省略)

【結果の考察】

就職先アンケートの結果から、教育効果の検証とキャリア支援の改善と向上のための検討を行った。

「現在の仕事において必要とされる能力・資質」という質問において、コミュニケーション能力や協調性、社会性を重視しているという回答が多かった。学科によって異なる特性があるが、グループでの作業や自己表現が多いコースでは、協調性やコミュニケーション能力が自然に身につく一方、個人での作業が主体のコースでは、その能力が弱い傾向がある。コロナ禍で積極的に人と関わらなかった影響もあるかもしれないが、今後コミュニケーション能力を上げるために発言やディスカッションの場を増やす必要があると考える。また、卒業生が「社会に出てみて、学生時代にもっと強化しておけばよかったと思う力」としてパソコンスキル・IT技能と回答した人が多かったことから、企業側との意識の差があることが分かった。同時に、課題発見力と課題解決力については人事担当者からの評価が低く、日ごろから学生の志向の低さも感じられ、演習やフィールドワークを通じて再度教育指導が必要である。

※個人情報を含むもの、自由記述につきましては割愛しております。

以上